

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部理学療法学科

名前 阿部由依

作成日 2023年3月22日

【責任】

本学における教育活動は、中枢神経系理学療法学の科目担当として、講義および講義の補佐を行っている。また、実習調整者として、新指定規則（2020年度入学生より適用）に基づいた臨床実習の遂行と実習施設・学生との調整業務を行っている。

【理念】

科学的な根拠に基づいた知識・技術を修得し、自ら問題を解決する能力を持つ学生を育成する。医療の進歩に遅れないように自ら学ぶ習慣を身に付け、質の高い理学療法を提供できる理学療法士を育成する。また、多職種とも協調してチーム医療を推進できるよう豊かな人間性を身に付ける。

【方針・方法】

方針は、（１）質の高い医療の提供のために、自ら学ぶ方法を身に付け、成長する機会を提供する、（２）臨床の重要性と楽しさ（達成感・充実感）を理解してもらう、（３）公平・公正な評価をつける、（４）円滑な臨床実習の遂行と実臨床における理学療法士としての意義を理解するの４点である。具体的な方法は、以下の通りである。

（１）質の高い医療の提供のために、自ら学ぶ方法を身に付け、成長する機会を提供する

- ・授業では、毎回小テストを実施し、理解度の確認を行う
- ・授業の中にアクティブラーニングを積極的に取り入れる
- ・授業中・授業以外の時間に、質問を受け付ける時間を設け、わからない点については個別で指導を行う
- ・教科書を基本に授業を進め、教科書を引く習慣を身に付ける

（２）臨床の重要性と楽しさ（達成感・充実感）を理解してもらう

- ・臨床での経験や具体的な症例について、口頭だけでなく録画ビデオ等により紹介をする
- ・モデル患者を授業内でお呼びし、病態のイメージを付け、実患者の理学療法とはどのようなものなのかを学習する

- ・外部講習会や学会への参加を促すあるいは同行する
- ・自身の研究内容や学会発表の報告を行う

(3) 公平・公正な評価をつける

- ・ルーブリック評価を作成する
- ・サマリー発表の際は、質問回数をチェックし、「自主性」の評価基準のひとつとする
- ・学生間での相互評価を行う

(4) 円滑な臨床実習の遂行と実臨床における理学療法士としての意義を理解する

- ・新指定規則での臨床実習について学生にわかりやすく指導する
- ・臨床実習指導者講習会（指導者・教員が受講）の講師・世話人を行う
- ・実習中は、学生・指導者とこまめに連絡を取り合い、学生の状況や指導方針について一緒に検討を行う

【評価・成果】

- ・神経障害学（2前）で学んだ内容について、中枢神経系理学療法学Ⅰ（3前）の開始時にテストを実施することで、病態の理解について再学習することができ、スムーズな授業開始につながった
- ・授業アンケートの内容より、学生からは良いフィードバックが得られている
- ・指導前・後での症例サマリーを比較すると、指導後のサマリーでレイアウト面や考察の部分で改善が見られた
- ・コロナ禍での臨床実習であったため、積極的に実習施設とのやりとりはできなかった

【目標】

- ・短期目標：
 - 1) ひとつでも多くの講義を受け持つ（2024年3月末まで）
 - 2) 学生の意見に傾聴し、相談しやすい教員として定着するよう心がける（2024年3月末まで）
 - 3) ゼミ生へ研究活動の指導を行い、臨床⇄研究の重要性を伝える（継続）
 - 4) 実習施設の学生・指導者と、こまめに連絡を取り合い、より充実した実習となるように働きかける（継続）

- ・長期目標：

他者の考えや姿勢を柔軟に取り入れ、日本の医療に貢献できる生徒を育成する